

# 令和6年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

## 北九州市立 北方 小学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和6年6～7月に、5年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。（熱中症等の予防の観点から、20mシャトルランについては、5月中旬から6月上旬に実施しています。）

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思っております。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部です。

### 1. 調査の目的

- (1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上にかかる施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

### 2. 調査内容

#### (1) 実技に関する調査

[8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

#### (2) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

### 3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

全国・本市・本校の実技調査の結果

<男子>

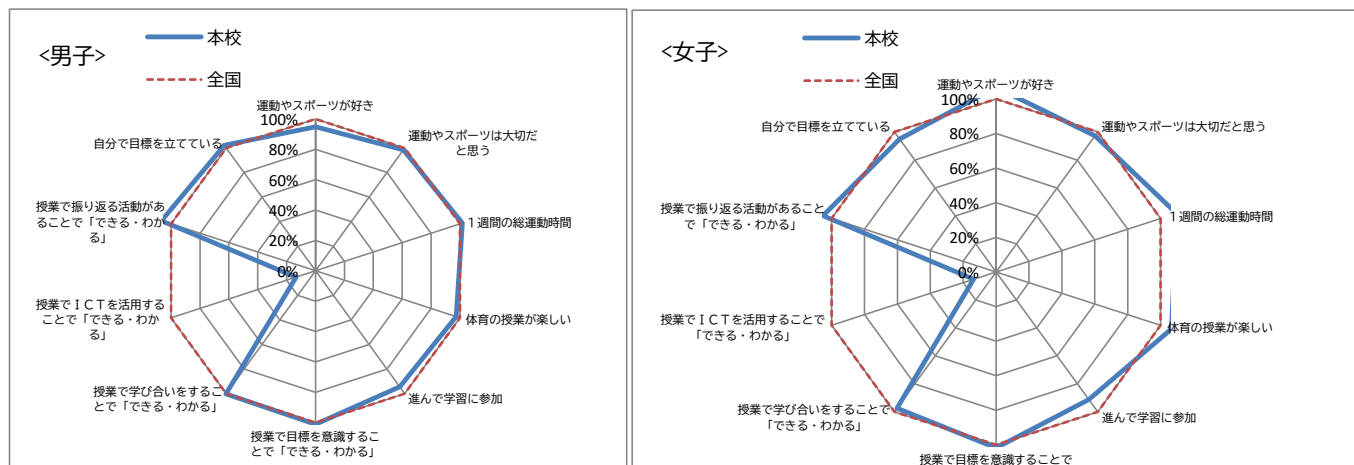
本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	16.01	19.19	33.79	40.66	46.90	9.50	150.42	20.75	52.53
本市	15.98	19.39	34.42	40.27	49.36	9.54	150.13	21.81	53.10
本校全国平均以上の種目		○				○		○	

<女子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	15.77	18.16	38.19	38.70	36.59	9.77	143.13	13.15	53.92
本市	15.88	18.39	38.51	38.13	38.67	9.79	142.58	13.44	54.32
本校全国平均以上の種目	○	○	○	○		○	○	○	○

### 4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査レーダーチャート



#### 質問紙調査の結果分析

「体育の授業は楽しいですか」という質問については、男女ともに全国平均を上回っている。肯定的評価が高くなった要因として、体を動かすことが好きな児童が多いということが考えられる。また授業内で学び合いを行うことで子どもが意欲的に活動できたと考えられる。

課題としては、「授業でICTを活用する」頻度が低いことが挙げられる。自分の課題を把握し、その課題に合った場で練習するなど児童が主体的に学ぶ環境をつくりたい。その為GIGA端末の録画機能を使って自分自身の現状を正確に把握して技能向上に繋げるなど、ICTの活用を促進する取組を行っていく。

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

体育科の授業改善「できた、わかるが実感できるスモールステップの授業」を継続・発展させていく。ICTの活用を促進することで「児童の主体的な学び」の向上に繋げ、課題解決に向けて練習したり、教えあったりするなどして「できる・わかる」を増やしていく。

毎年4月に、体力テストの結果を基に本年度の目標値をそれぞれの児童が設定する時間を設け、主体的に体力の向上に取り組むことができるようにする。

#### ② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

体育部が中心となって「全力で走って記録を伸ばそう週間」や「SKE(さわやか北方エクササイズウィーク)」などの運動週間を設定し、取り組んでいる。また放課後や休日にも運動する機会が増えるように、運動習慣の現状や学校での活動をホームページ等で伝え、家庭と学校で連携して取り組むことができるようにする。